

- ① 自然環境ふれあい講座「高槻・春の自然に触れよう」 (全4回 2,000円)
 ② 大阪成蹊大学・短期大学公開講座「シリーズ 四季を味わう～『夏』～」(全3回 2,000円)
 ③ 京都工芸繊維大学提携講座「文化財を支える伝統の技」 (全5回 3,000円)
 ④ 阿武山地震観測所提携講座「内陸地震と南海トラフ地震」 (全4回 2,500円)
 ⑤ 同志社大学提携講座「江戸時代の和歌と朝廷」 (全3回 2,000円)
 ⑥ 毎日新聞社提携講座「時代を読む記者の目」 (全3回 2,000円)

○ 申込方法 ①は定員に達したため、応募を締め切りました。

②～⑥は、はがき、FAX、電子申込、または直接生涯学習センターへ

1. はがき… はがきの裏面に、①希望講座名、②郵便番号・住所、③氏名
(ふりがな)、④電話番号を記入し、下記へ郵送

2. FAX… FAXは上記の①～④とあなたのFAX番号をご記入のうえ下記へ送信
※ 1枚で複数講座のお申込みができます。

高槻市ホームページ内、「簡易電子申込サービス」からもお申込みいただけます。

○ 申込期間 4月1日(月)～4月10日(水)必着

※申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

※締め切り後、定員に達していない場合は電話で申込みを受け付けます。

○ あて先 〒569-8501(住所不要) 高槻市立生涯学習センター

○ 問合せ先 TEL 072-674-7700 FAX 072-674-7704

自然環境ふれあい講座 「高槻・春の自然に触れよう」

○ 講師： NPO法人シニア自然大学校・高槻支部 ネイチャーたかつきのみなさん

○ 受講料： 2,000円(全4回分) 要交通費※現地集合・現地解散

○ 定員： 50人

受付は終了しました

	日程	内容	集合場所
1	4月 9日(火) 9:30～12:30	可憐な花咲き競う淀川河川敷	冠コミュニティセンター前
2	4月23日(火) 10:00～13:00	三箇牧、玉川～卯の花のにおう里を歩く	三箇牧公民館
3	5月 7日(火) 9:40～16:00	自然あふれる川久保溪谷	川久保分校跡 (昼食持参)
4	5月21日(火) 13:30～16:00	まちの樹木・史跡をめぐる	小寺池図書館付近の公園

大阪成蹊大学・短期大学公開講座 「シリーズ 四季を味わう～「夏」～」

日本には四季というものがあります。四季それぞれの季節を感じ取った言の葉が存在します。また、この美しい言の葉を紡いで表現されたものからは、四季を愛でた人々の繊細なところを知ることができます。四季の持つ世界を、今回は「夏」をテーマに味わってみましょう。

○ 受講料： 2,000円 (全3回分)

○ 定 員： 50人

○ 時 間： 14:00～15:30

○ 会 場： 生涯学習センター3階 研修室

	日 程	内 容	講 師
1	5月13日(月)	<p style="text-align: center;">夏の季節感</p> <p>江戸時代の人々は一体どのようなものに夏を感じたのでしょうか。祭りや花火にうかれ、蒸し暑さの中の行水を楽しんだりしたのでしょうか。動植物では夏のものとしてどのようなものがあるのでしょうか。作品を味わうとともに、そこで生活する庶民の姿もとらえたいと思います。</p>	大阪成蹊大学 名誉教授 中村 隆嗣さん
2	5月20日(月)	<p style="text-align: center;">日本中世の「夏」について考える</p> <p>昨年、2018年の「夏」はまことに厳しかったと記憶しております。現在のようにとんでもない高温が日々の生活を直撃し、熱中症により救急車で運ばれる人々のニュースを聞くと、平安時代や鎌倉・室町時代の日本人はどのような「夏」を経験していたのかと思われます。四季の変化が日本人の心、考え方に及ぼした影響はどのようなもののでしょうか？ 昨年の「春」に続き、今回は日本中世に生きた人々が感じ表現した「夏」について考えたいと思います。 古代(奈良時代から平安時代)には「夏」をどのように過ごしたのか、またその中で培われた感覚が文学や絵画などに如何なる形で表現されているかを具体的な資料をもとに探してみたいと思います。</p>	大阪成蹊短期大学 元准教授 岡見 弘道さん
3	6月 3日(月)	<p style="text-align: center;">『和漢朗詠集』にみる和と漢</p> <p>平安中期の歌人藤原公任(きんとう)によって、588種の漢詩、216種の和歌が集められたアンソロジー(詞花集)である、『和漢朗詠集』の(巻上夏)に収められた漢詩、和歌のいくつかを読み、平安貴族の愛した漢詩の世界と和歌の世界に入ってみます。</p>	大阪成蹊短期大学 名誉教授 浅野 敏彦さん

京都工芸繊維大学提携講座「文化財を支える伝統の技」

○ 受講料： 3,000円（全5回分）

○ 定 員： 50人

○ 時 間： 14:00～15:30

○ 会 場： 生涯学習センター3階 研修室

	日 程	内 容	講 師
1	5月16日(木)	<p style="text-align: center;">文化財修理の歩み</p> <p>このコースは、「文化財を支える伝統の技」という全体の共通タイトルにて様々な専門家が講義を進めてまいります。その第1回目は、我が国で什宝(じゅうほう)や宝物と呼ばれる品々がどのように守り伝えられ、特に明治時代以降には文化財を守るという体制がどのように整えられて、現在に至っているのかを概説いたします。</p>	<p>京都工芸繊維大学 株式会社岡墨光堂 代表取締役 岡 岩太郎さん</p>
2	5月23日(木)	<p style="text-align: center;">組紐・伝統から未来へ</p> <p>現在、組紐は帯締めとして知られていますが、古くは縄文時代から存在していました。そして、衣冠束帯の平緒や鎧の紐など、貴族や武士階級になくはならないものになりました。このような組紐の歴史やこれからの組紐をご紹介します、手軽にできる組紐を製作いたします。</p>	<p>京都工芸繊維大学 非常勤講師 多田 牧子さん</p>
3	5月30日(木)	<p style="text-align: center;">文化財を守る伝統の技－被災した文化財を守る</p> <p>災害で被災した文化財を災害からどのように守るのか。日本では、1995年の阪神・淡路大震災以降、中越地震、能登半島地震、東日本大震災等の大規模災害を経験しながら、被災文化財への支援の枠組みを整備してきました。本講義では、世界からも注目されている日本の被災文化財支援の取り組みについて紹介します。</p>	<p>国立民族学博物館 教授 日高 真吾さん</p>
4	6月 6日(木)	<p style="text-align: center;">文化財を守る伝統の技－漆工品の修理－</p> <p>古代より漆は天然の塗料、接着剤として用いられながら発展し、現在まで伝わっています。本講座では文化財における漆工品の修理について紹介します。</p>	<p>漆工芸家 北村 繁さん</p>
5	6月13日(木)	<p style="text-align: center;">書画文化財を守る装演(そうこう)修理技術</p> <p>この講義では、掛け軸に仕立てられた書画の修理について解説します。書画の修理を専門用語では装演(そうこう)修理と呼びます。この装演修理によって重要と考えられている作業の内容、修理の原則論について触れ、伝統の技術を次世代に継承するための新たな試みについてお話いたします。</p>	<p>京都工芸繊維大学 株式会社岡墨光堂 代表取締役 岡 岩太郎さん</p>

阿武山地震観測所提携講座「内陸地震と南海トラフ地震」

○ 受講料： 2,500円（全4回分）

○ 定 員： 50人

○ 時 間： 14:00～15:30

○ 会 場： 生涯学習センター3階 研修室

	日 程	内 容	講 師
1	6月 1日(土)	<p style="text-align: center;">満点計画一次世代型稠密地震観測計画一</p> <p>地震の観測点をこれまでとは桁違いの密度に増やそうとする計画を進めています。目標は1万点規模であり、それは地震観測の理想像に近いので、この計画を満点計画と名付けました。満点計画の目的など、計画の概要について紹介します。満点計画は、地震の観測計画ですが、学校や地域の防災教育ともつながっています。</p>	京都大学 教授 阿武山地震観測所 所長 飯尾 能久さん
2	6月15日(土)	<p style="text-align: center;">満点計画の最新の成果Ⅰ－地下の不均質構造－</p> <p>満点計画の主な目的の一つは、内陸地震の発生過程の解明です。内陸のプレート内の不均質構造が鍵を握っていると考えられます。そのため、地震波を用いて地下深部の構造を詳しく調べています。最新の成果について分かりやすく紹介します。</p>	
3	6月22日(土)	<p style="text-align: center;">満点計画の最新の成果Ⅱ－地下深部の水－</p> <p>内陸地震の発生において、水が重要な役割を果たしていると考えられています。しかしながら、地震が起こるような地下深部における水の振る舞いについては、よく分かっていません。満点計画により明らかになりつつある成果について、分かりやすく紹介します。 大阪北部の地震についても触れる予定です。</p>	
4	6月29日(土)	<p style="text-align: center;">南海トラフ地震の「臨時情報」について</p> <p>2018年の年末、南海トラフ地震の発生可能性が高まっていることを事前に示す「臨時情報」に対する対応指針が国から示されました。これは、一種の地震予測情報で、使い方によっては、非常に大きな減災効果を期待できますが、他方で、対応を誤ると、無用の社会的混乱も生じます。もっとも新しい地震情報である「臨時情報」の光と陰についてお話します。</p>	京都大学 教授 阿武山地震観測所 教授 矢守 克也さん

